

第3回知事メッセージ起草委員会 主な意見

○全体的な趣旨・構成について

- ・感謝や挑戦について具体的に書き込まれており、この1年間で何があったのかが感じられる。
- ・全体的に冗長な文章になっている。メッセージであることを考えると、長くせず切ったほうが無難ではないか。
- ・農業から世界に発信するといいいのではないか。商業も復活させなければならぬが、農業が復活することによって、土と共に生きる力が芽生えるのではないか。
- ・「こそあど言葉」が多いことが気になったが、あえて使うことで、聞いた方がそれぞれの「あの日」を思い出すことができる効果があると思った。

○入れ込むべき内容について

- ・双葉町の避難指示が解除される話も良いが、今年が一番大きな話は帰還困難区域で初めて人々の暮らしが始まることではないか。
- ・食べる、若しくはおいしいという感覚をもって、被災地の方や県民、県外の方、消費者の方の思いに、横串を通せたら面白いのではないか。
- ・風評被害や風化のことをどこかに入れ込めないか。

○メッセージの表現等について

- ・冒頭に「東日本大震災から11年」とあるが、今までの流れを踏襲し、「東日本大震災と原発事故」とするべきではないか。
- ・具体的な1年間の動きについて、農林水産業関係に偏っているのではないか。
- ・「浪江町で産まれた」について、この「産まれた」を使うことも意味合いとして良く、面白い。
- ・最終的には読みやすければ良いが、平仮名が続くため、書き方を工夫して「ふるさと」か、そうでなければ「古里」でも悪くはない。
- ・原発事故について、しっかり書いていこうと過ごしてきた。その思いは今も変わっていないし、避難している方も同じだろうと思う。

- ・全体を通して読点が多いので、句点を活用すべき。
- ・「温かみのある輪を育み、広げて」は「温かな和を奏で、絆を広げる」にしたほうが分かりやすい。
- ・「私たちはあの日」の「あの日」がいつを指しているのか、3月11日なのか、その後の余震や水害なのか分からない。
- ・「ふくしまプライド。」という言葉は、これからも使い続けてほしい。
- ・実被害を受けている者もあり、「風評」という言葉を今は使っていただきたくない。
- ・大人と子どもと一緒に「ふくしまプライド。」を身につけて行ってほしい。
- ・「古里」という書き方は、少し冷たく感じてしまうところもある。
- ・今回の子どもたちの言葉は温かくて、福島で育った子どもたちであることが伝わってきたので、あえて「教育」という言葉を入れなくてもいいのかなと考えた。